

Shēng táng rù shì

升堂入室

のぼ
堂に
のぼり
室に入る

桜美林大学名誉教授 / 孔子学院講師 植田渥雄



子路と言え、孔子門下では最年長の弟子で、勇猛を以て鳴る人物です。『論語』では子貢と並んで最も多く登場します。決断力と忠誠心に富み、多方面からその政治手腕を買われていました。『論語』には「政事冉有、季路 (Zhèng shì rǎn yǒu, jì lù)」(政事には冉有、季路)〈先進第十一〉とあります。ともに孔子の弟子で、ここでいう季路とは子路のことです。魯の権力者であった季康子から、子路の政治家としての資質を問われたとき、孔子は「由也果。於从政乎，何有! (Yóu yě guǒ. yú cóng zhèng hū, hé yǒu!)」(由や果なり。政に従うに於いて、何か有らん)〈雍也第六〉。子路は決断力のある人物だから、政務に従事させても何ら問題ない、と答えています。由とは子路の本名です。これを見ても子路は孔子から厚い信頼を得ていたことがわかります。

しかし一方、気性が荒く、学問を軽視する傾向がありました。まだ若い、学問的にも未熟な弟子の子羔を、子路が費という村の宰(管轄官)に抜擢したとき、孔子は、早すぎる抜擢はかえって本人を駄目にする忠告しました。これに対して子路は「有民人焉。有社稷焉。何必读书，然后为学! (Yǒu mǐn rén yān. Yǒu shè jì yān. Hé bì dú shū, rán hòu wéi xué!)」(民人有り、社稷有り。何ぞ必ずしも書を読み、然る後に学と為さん)〈先進第十一〉。民をしっかり治め、その土地をしっかり守ること、これが立派な学問修行というものではないですか。その前にまず本を読んでからというものでもないでしょう、と言って孔子の忠告に耳を貸しませんでした。これを聞いて孔子は「是故恶夫佞者 (Shì gù wù fū níng zhě)」(是の故に夫の佞者を悪む)〈同上〉。だから屁理屈をこねる奴は嫌なんだ、とボヤいています。こ

ういった子路の頑固さには、さすがの孔子も手を焼いていたようです。

さて、この子路、ある日孔子の塾の門前で得意げに瑟(五十絃琴)を奏でていました。日ごろから音楽に厳しい孔子にとっては、とても聞くに堪えない、荒っぽい弾き方だったようです。ところが子路は意に介する様子もありません。そこで孔子は多くの弟子の前でついボヤいてしまいました。「由之鼓瑟，奚为於丘之门! (Yóu zhī gǔ sè, xī wéi yú qiū zhī mén!)」(由の瑟を鼓す、奚為れぞ丘の門に於いてする)〈先進第十一〉。子路の奴、何でまた丘(丘は孔子の本名)の門前で瑟など弾くのだろう、と。あまりにも粗野で聞いておれない、というわけです。そのせいで若い門人たちは子路を見下すようになりました。これはまずいと思ったのか孔子は次のように弟子たちに語りました。「由也升堂矣。未入於室也 (Yóu yě shēng táng yǐ. Wèi rù yú shì yě)」(由や堂に升り。未だ室に入らざるなり)。子路の腕前は既に水準に達している。ただ熟達の域に至っていないだけだ。つまり私のハードルが高すぎたのだ、と。堂とは南に面した客間のこと。地面よりは高いところにあるので、「堂に升る」とは、ある程度の高みに達することです。室とは奥の間のこと。したがって「室に入る」とは技能が奥義を窮めることをいいます。孔子はふと漏らした自分の一言が、子路の体面を傷つけたことに気づき、若い門人たちの前でこのような心にもない言い訳をしたのです。この一事からも弟子に対する孔子の細やかな気遣いが読み取れます。

ちなみに日本では、技能が熟達することを「堂に入る」と言いますが、語源はここから来ています。

(わりい「中国語で読む漢詩の会」講師)